

# 国際交流が進む鳥取県と江原道

～国際交流意識調査を初めて鳥取県と江原道で実施～

研究員 山 根 茂 幸

グローバル化時代の到来、交通網の発達等で国の枠を越え、地域レベルでの国際交流が盛んになってきており、国際交流の視点から地域活性化施策を考えることは一層重要になっている。鳥取県でもその地理的特徴を活かし、環日本海諸国との窓口となるべく、様々な取り組みがなされ、米子 - ソウル間の定期航空便の就航、境港を中心とした貿易量の増大など、国際交流が活発化してきている。

このような中で、鳥取県の国際交流の現状を把握するため、国際交流に関する県民アンケート調査を実施した。

また、今回の調査は、とっとり総研と業務提携している韓国・江原発展研究院と協力して、鳥取県及び県や市町村が友好提携している韓国江原道で同時調査を初めて実施し、鳥取県民と江原道民の国際交流に対する意識の比較検討も行った。

その結果、鳥取県、江原道ともに交流希望先を環日本海諸国を回答した人が最も多くなるなど同地域での国際交流推進が今後一層重要になってくることがうかがえる。調査の概要は、次のとおりである。

## 1 アンケート実施の概要

### (1) 鳥取県

実施基準日 2002年12月1日

調査対象地域 県内市町村のうち、江原道との友好交流の有無、地域間の均衡等を考慮し、11市町村を対象とした。

[ 鳥取市、米子市、倉吉市、境港市、岩美町、智頭町、気高町、東伯町、西伯町、淀江町、日南町 ]

調査対象者 選挙人名簿から無作為抽出した満20歳以上の男女

実施方法 郵送配布、郵送回収

対象者数 3,500人

回収数 884

回収率 25.3%

### (2) 韓国江原道

実施期間 2002年11月～2003年1月

調査対象地域 江原道内市郡のうち、14市郡を対象とした。

[ 春川市、原州市、江陵市、東海市、太白市、束草市、横城郡、寧越郡、旌善郡、華川郡、楊口郡、麟蹄郡、高城郡、襄陽郡 ]

調査対象者 20歳以上の男女

調査方法 面接調査

対象者数及び回答者数 1,100人

## 2 回答者の属性

### (1) 年齢

区 分	鳥 取 県		江原道(韓国)	
	件数	全体(%)	件数	全体(%)
20代	82	9.3	262	23.8
30代	114	12.9	254	23.1
40代	157	17.8	226	20.5
50代	209	23.6	258	23.5
60代	181	20.5	84	7.6
70歳以上	136	15.4	16	1.5
不 明	5	0.6		
合 計	884	100.0	1,100	100.0

(2) 性別

区分	鳥取県		江原道(韓国)	
	件数	全体(%)	件数	全体(%)
男	397	44.9	550	50.0
女	479	54.2	550	50.0
不明	8	0.9		
合計	884	100.0	1,100	100.0

(3) 住所

鳥取県			江原道(韓国)		
区分	件数	全体(%)	区分	件数	全体(%)
鳥取市	307	34.7	春川市	195	17.6
岩美町	35	4.0	原州市	202	18.4
智頭町	26	2.9	江陵市	182	16.5
気高町	29	3.3	東海市	87	7.9
倉吉市	87	9.8	太白市	49	4.5
東伯町	35	4.0	束草市	74	6.7
米子市	234	26.5	横城郡	41	3.7
境港市	58	6.6	寧越郡	46	4.2
西伯町	21	2.4	旌善郡	45	4.1
淀江町	21	2.4	華川郡	34	3.1
日南町	20	2.3	楊口郡	35	3.2
不明	11	1.2	麟蹄郡	37	3.4
			高城郡	36	3.3
			襄陽郡	37	3.4
合計	884	100.0	合計	1,100	100.0

(4) 職業

区分	鳥取県		江原道(韓国)	
	件数	全体(%)	件数	全体(%)
農林水産業	50	5.7	43	3.9
自営業	80	9.0	340	30.9
会社員	248	28.1	211	19.2
公務員	78	8.8	68	6.2
学生	14	1.6	107	9.7
主婦	183	20.7	211	19.2
無職	163	18.4	65	5.9
その他	57	6.4	55	5.0
不明	11	1.2		
合計	884	100.0	1,100	100.0

### 3 アンケート集計結果の概要

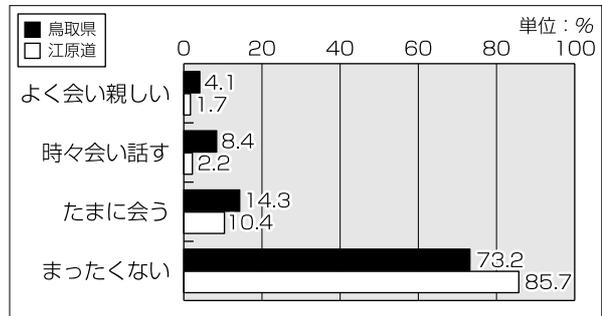
(1) 個人での国際交流について

問1 あなたは、現在、外国人との交流がありますか。

現在外国人と何らかの交流があると回答した人は、「よく会い親しい」(4.1%)、「時々

会い話す」(8.4%)、「たまに会う」(14.3%)を合わせ、4人に1人であった。

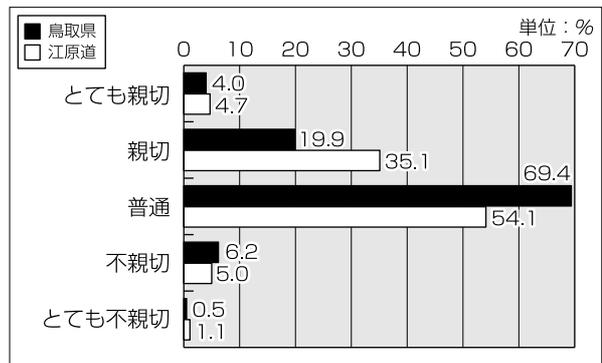
江原道と比較すると、何らかの交流がある人が鳥取県では26.8%あり、江原道の14.3%の約2倍となっている。



問2 あなたはあなたの周りの人が外国人に親切だと思いますか。

「普通」と回答した人が69.4%で最も多く、周りの人が外国人に親切であると回答した人は、「とても親切」、「親切」を合わせて23.9%であった。

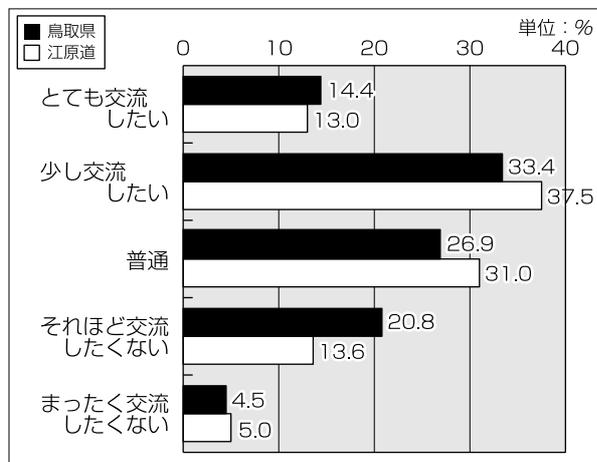
江原道との比較では、親切であると回答した人が江原道では39.8%と、鳥取県の23.9%より15.9ポイント高くなっている。



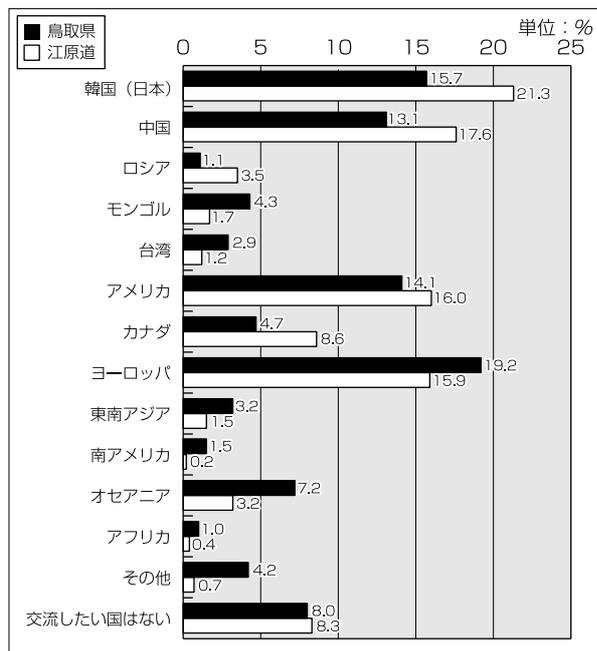
問3 あなたは、将来、機会があれば外国人と交流したいと思われませんか。

外国人と交流したいと回答した人は、「とても交流したい」と「少し交流したい」を合わせ47.8%で、交流したくないと回答した人の25.3%を2倍弱上回る結果であった。

江原道との比較では、交流したいと回答した人が江原道では50.5%で鳥取県を2.7ポイント高くなっており、逆に交流したくないと回答した人は江原道では18.6%と、6.7ポイント低くなっている。



問4 もし、あなたは、将来、機会があればどの国(地域)の人と交流したいと思いますか



交流先の希望として、ヨーロッパが19.2%と最も多く、次いで、韓国15.7%、アメリカ14.1%、中国13.1%となっており、韓国、中国、ロシア、モンゴルを加えた環日本海諸国との交流希望が34.2%と高くなっている。

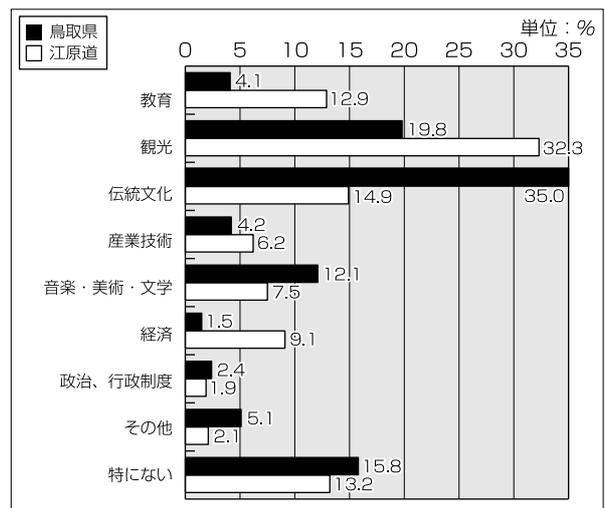
江原道では、日本が21.3%で最も高く、次いで中国17.6%、アメリカ16.0%、ヨーロッパ15.9%となっている。

江原道と比較すると、江原道では、日本との交流をあげた人が鳥取県で韓国をあげた人より5.6ポイント、中国が4.5ポイント、カナダが3.9ポイント高くなっており、鳥取県ではオセアニアが4.0ポイント、ヨーロッパが3.3ポイント高くなっている。

問5 あなたは外国人との交流で、特に関心の高いことは何ですか。

外国人との交流では伝統文化に関する関心が35.0%と最も高く、次いで観光19.8%、音楽・美術・文学12.1%となっている。また、特にないと回答した人も15.8%となっている。

江原道と比較すると、江原道では観光が32.3%と最も多く、鳥取県より12.5ポイント高くなっている。また、経済が9.1%で、鳥取県より7.6ポイント高くなっている。一方、伝統文化が14.9%と20.1ポイント低くなっている。

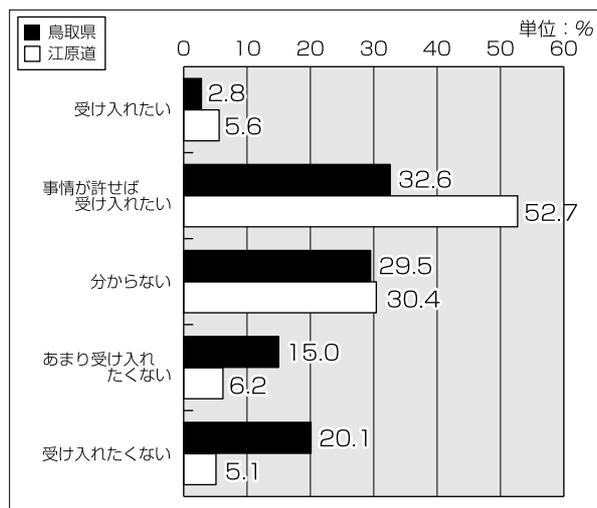


問6 外国人の短期のホームステイ(宿泊)を受け入れたいと思われませんか。

「受け入れたい」と「事情が許せば受け入

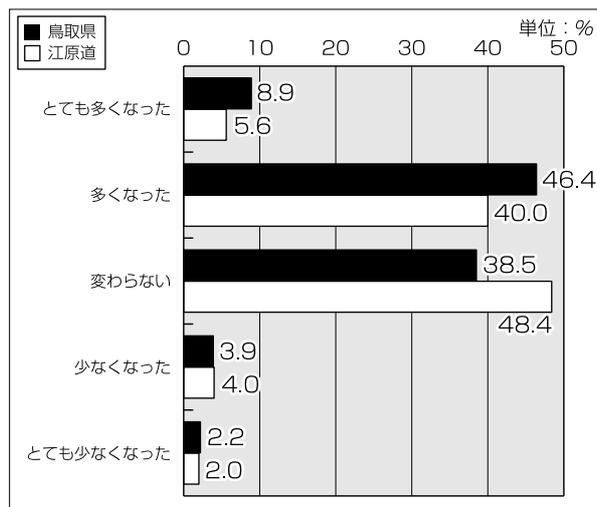
りたい」を合わせた受け入れに積極的な回答が35.4%であったが、「あまり受け入れたくない」と「受け入れたくない」を合わせた受け入れに消極的な回答も35.1%であった。

江原道との比較では、江原道は受け入れに積極的な回答が58.3%と鳥取県より22.9ポイント高く、逆に消極的な回答は11.3%と23.8ポイント低くなっている。



## (2) 地域での国際交流について

問7 ここ5年間に、地域（近所や職場などの生活圏）で外国人を見かける機会は増えましたか。



外国人を見かける機会が増加したと回答した人は、「とても多くなった」と「多くなった」を合わせ、55.3%で、逆に「少なくなっ

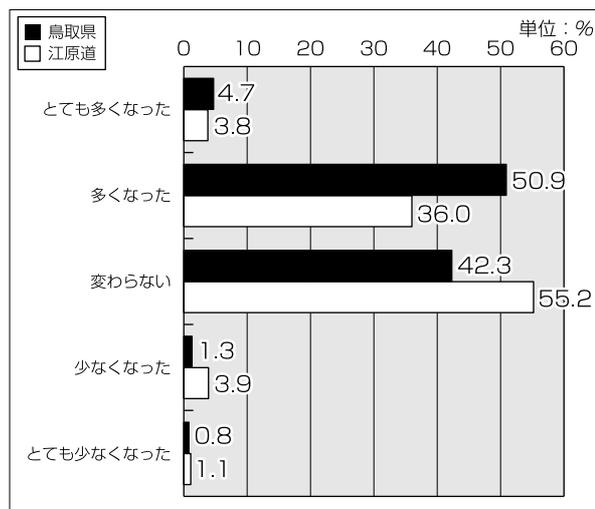
た」と「とても少なくなった」を合わせ、減少したと回答した人は6.1%であった。

江原道との比較では、江原道は増加したと回答した人が45.6%で鳥取県より9.7ポイント低くなっている。

問8 ここ5年間に、地域で行われる国際交流に関するイベントや活動などが多くなったと思えますか。

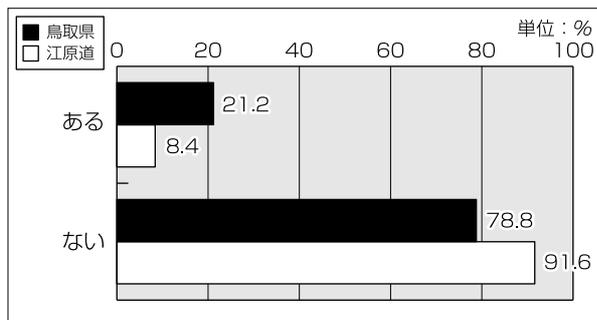
国際交流イベント等が増加したと回答した人は、「とても多くなった」と「多くなった」を合わせ、55.6%で、逆に「少なくなった」と「とても少なくなった」を合わせ、減少したと回答した人は2.1%であった。

江原道との比較では、江原道は増加したと回答した人が39.8%で鳥取県より15.8ポイント低くなっている。



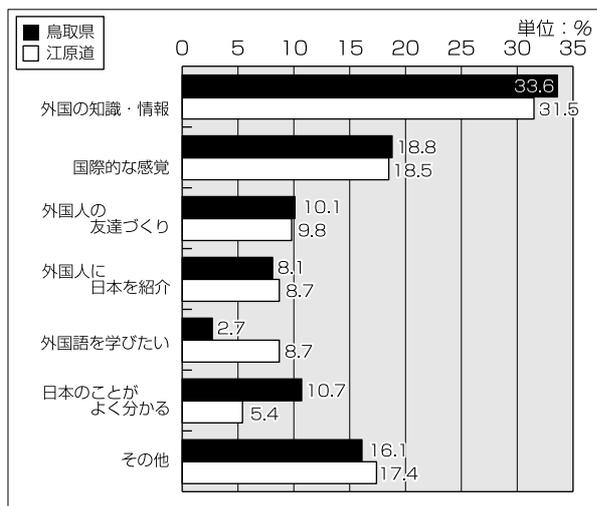
問9 今までに、国際交流に関するイベントや活動に参加されたことがありますか。

鳥取県では、国際交流イベント等へ参加したことがあると回答した人が21.2%で江原道より12.8ポイント高くなっている。8割近くの人が参加したことがないと回答している。

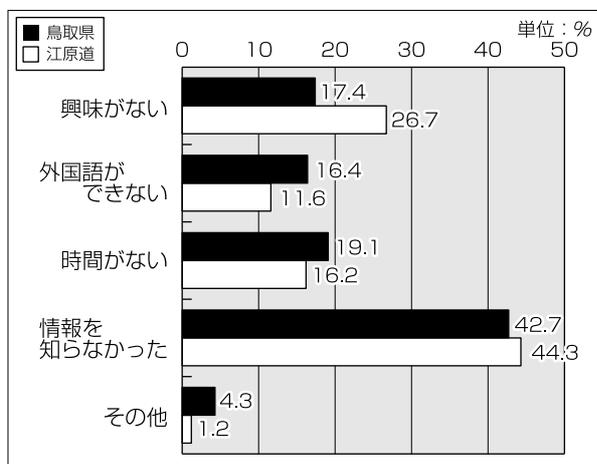


問9 - a 参加された理由は何ですか。

鳥取県では、「外国の知識・情報が得られるから」が33.6%で最も多く、次いで「国際的な感覚を身につけたいから」が18.8%となっている。江原道と比較して参加理由に大きな差はみられない。



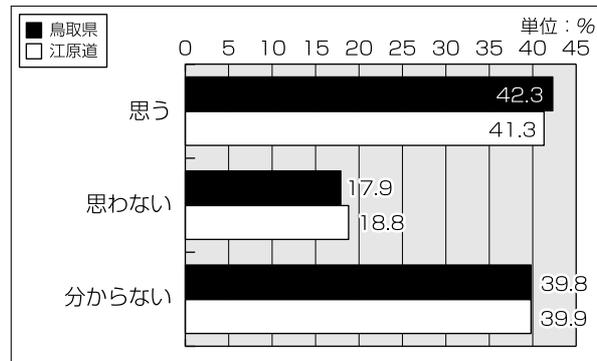
問9 - b 参加されなかった理由は何ですか。



「イベントに関する情報を知らなかったから」が最も多く、鳥取県で42.7%、江原道で44.3%となっている。続いて、鳥取県では「時間がないから」が19.1%であるのに対し、江原道では「興味がないから」が26.7%で鳥取県より9.3ポイント高くなっている。

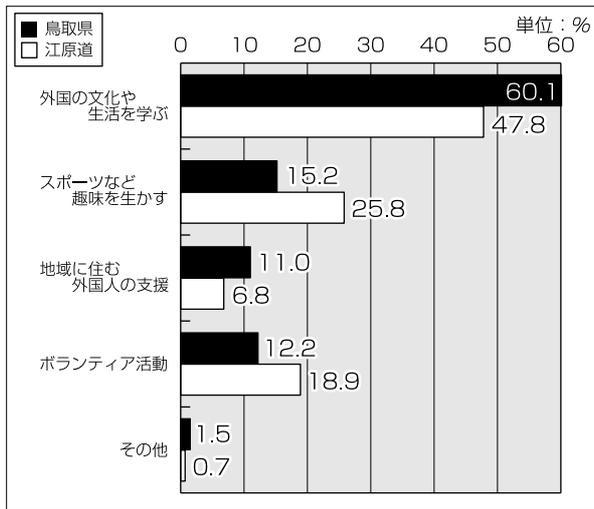
問10 今後機会があれば国際交流に関するイベントや活動に参加したいと思いますか。

国際交流イベント等へ参加したいと思うと回答した人は、鳥取県が42.3%、江原道が41.3%であったが、鳥取県、江原道ともに分からないと回答した人も約4割であった。



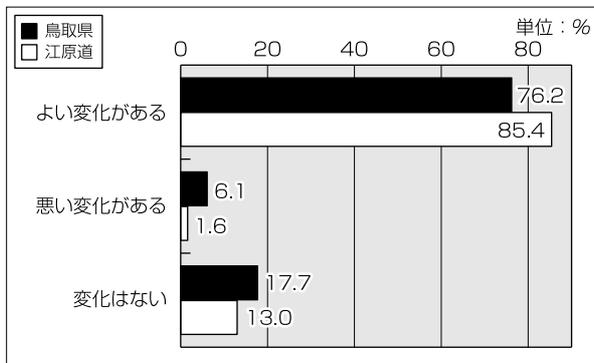
問10 - a どんな活動に参加したいと思いますか。

「外国の文化や生活を学ぶ交流活動」が60.1%で最も多く、これに続く活動内容は15.2%から11.0%までの間で拮抗している。江原道でも、「外国の文化や生活を学ぶ交流活動」が47.8%で最も多いが、鳥取県より12.3ポイント低くなっている。次いで、「スポーツなど趣味を生かした交流活動」が25.8%で、鳥取県より10.6ポイント高くなっている。



問11 国際交流が進んでいくと地域社会にどんな変化があると思われますか。

「よい変化があるだろう」と回答した人が、鳥取県では76.2%、江原道で85.4%で、「悪い変化があるだろう」と回答した人（鳥取県6.1%、江原道1.6%）を大きく上回り、多くの人が国際交流を肯定的に捉えていることがうかがえる。

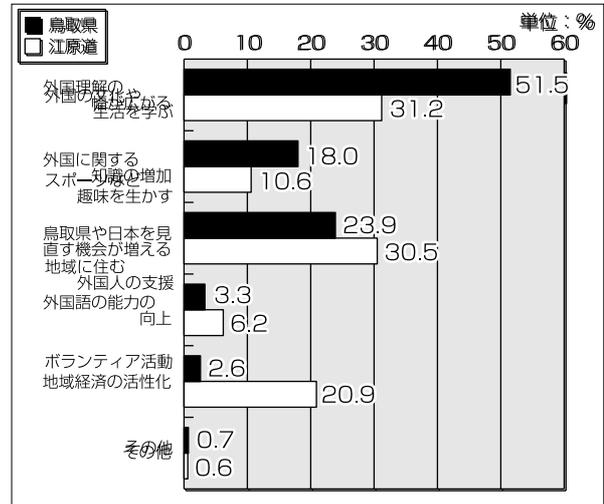


問11-a よい変化とはどんな変化だと思われますか。

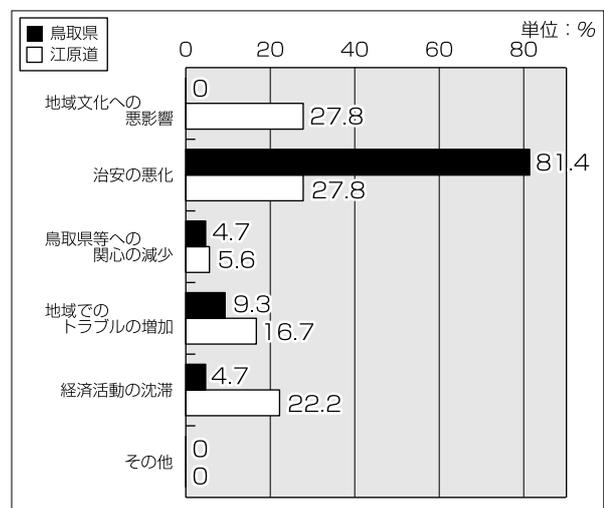
「外国に対する理解の幅が広がる」と回答した人が51.5%で最も多く、次いで「鳥取県や日本を見直す機会が増える」が23.9%となっている。

江原道と比較すると、最も多かった回答は「外国に対する理解が広がる」で同じであったが鳥取県より20.3ポイント低い31.2%であ

った。一方、鳥取県では2.6%であった「輸出増加等により地域経済が活性化する」と回答した人は、江原道では20.9%で、鳥取県より18.3%高かった。国際交流によって地域経済が活性化すると感じる江原道民が多くなっている。



問11-b 悪い変化とはどんな変化だと思われますか。

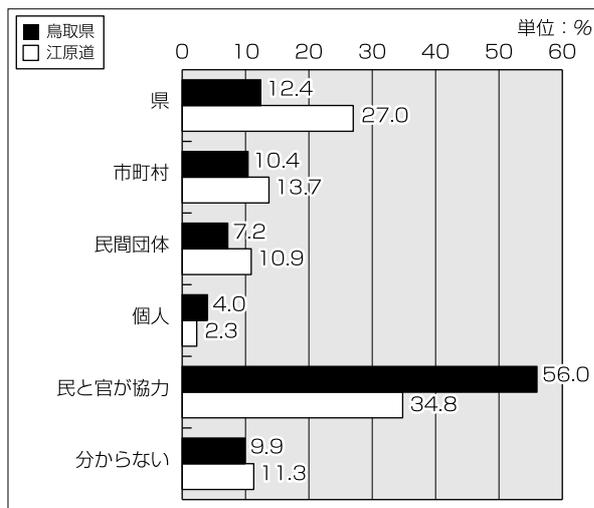


鳥取県では、「犯罪の増加など治安が悪くなる」と回答した人が、81.4%と圧倒的に多くなっている。他方、江原道では「文化への悪影響」「治安の悪化」「経済活動の沈滞」が拮抗している。

問12 国際交流を主体的に推進するのは誰だと思われますか。

「行政と民間が協力して」と回答した人が56.0%と最も多く、県と市町村を合わせた回答22.8%の2倍以上となっている。

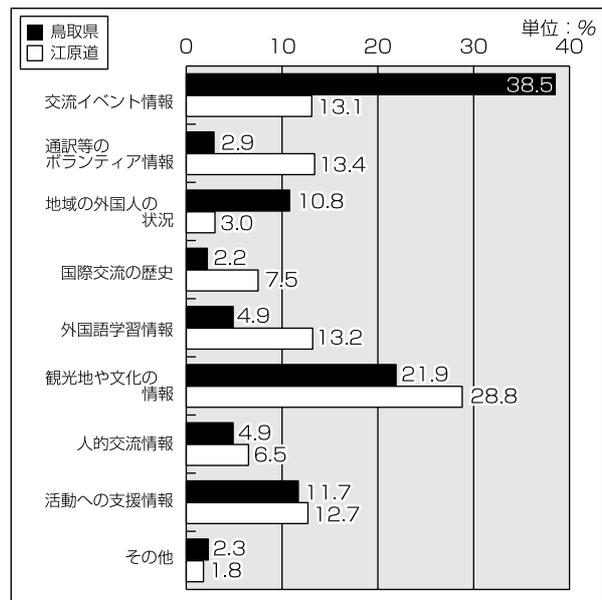
江原道でも、「行政と民間が協力して」と回答した人が34.8%と最も多いが、鳥取県より21.2ポイント低く、道と市郡とを合わせた回答が40.7%と多く、行政が主体的に推進するべきと考えている人が多くなっている。



問13 国際交流に関して、鳥取県や市町村から発信して欲しい情報は何か。

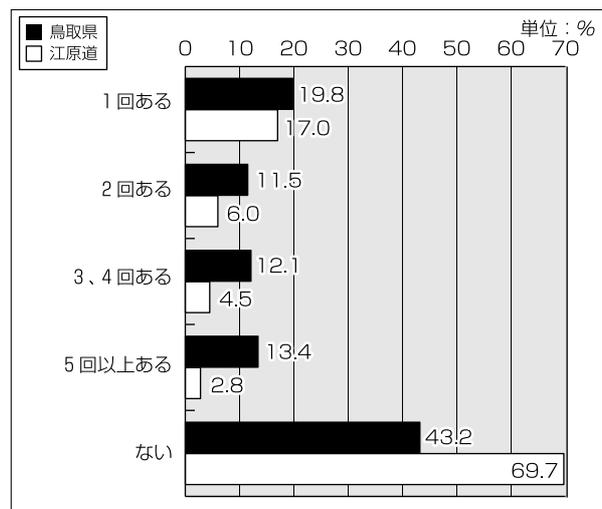
「交流イベント情報」と回答した人が38.5%で最も多く、次いで「外国の観光地や文化の情報」が21.9%、「個人や団体の交流活動への支援情報」が11.7%となっている。

江原道では、「外国の観光地や文化の情報」が28.8%で最も多く、鳥取県より6.9ポイント高くなっている。続いて「通訳などのボランティア情報」が13.4%で、鳥取県より10.5ポイント高くなっている。逆に、鳥取県で最も多かった「交流イベント情報」は、13.1%で、鳥取県より25.4ポイント低くなっている。



(3) 海外訪問状況、江原道との交流状況

問14 あなたは今までに海外に行かれたことはありますか。

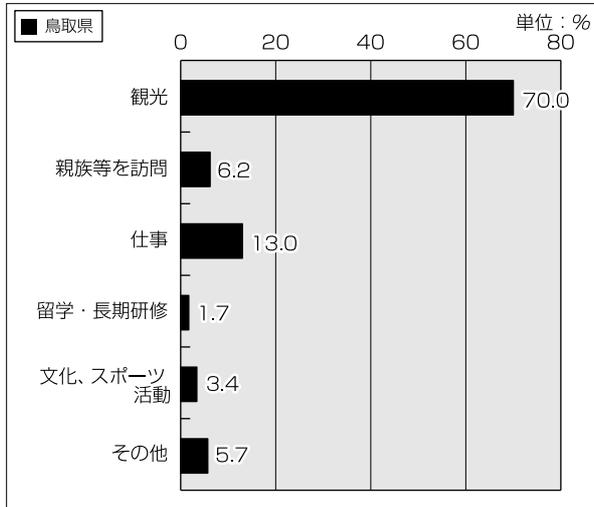


海外に1度でも行ったことがあると回答した人は56.8%であった。訪問回数では1回あると回答した人が19.8%で最も多く、5回以上と回答した人も13.4%となっている。

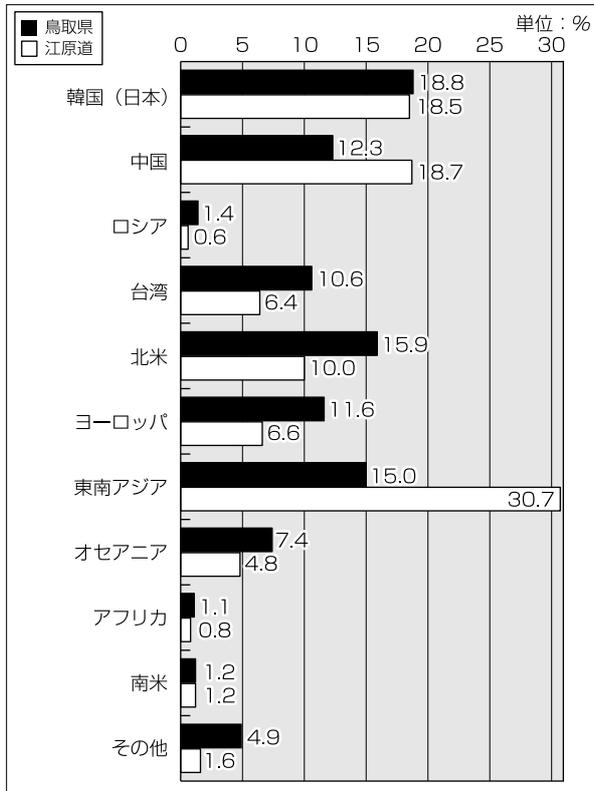
江原道では、海外に1度でも行ったことがあると回答した人は鳥取県より26.5ポイント低い30.3%であった。訪問回数では、1回あると回答した人が17.0%と鳥取県と比べ2.8ポイント低いのに比べ、5回以上あると回答した人は2.8%で、10.6ポイント低くなっている。

問14- a 海外を訪問された主な目的は何ですか。(複数回答)(江原道で設問なし)

「観光」が70.0%で最も多く、次いで「仕事」が13.0%であった。



問14- b 訪問された地域はどちらですか。(複数回答)



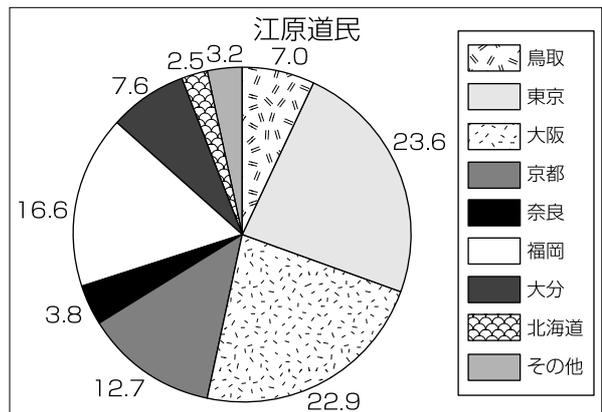
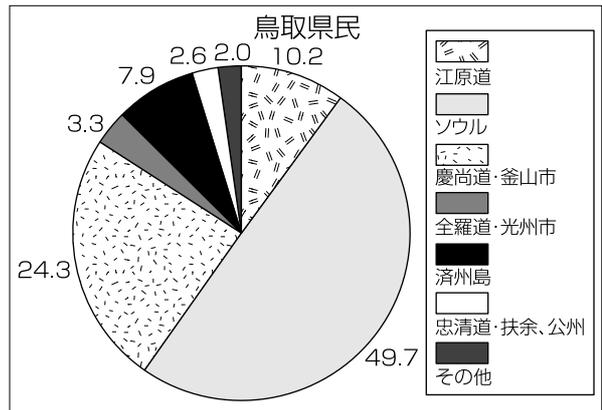
韓国が18.8%で最も多く、次いで北米が15.9%、東南アジアが15.0%、中国が12.3%となっている。

江原道では、東南アジアが30.7%で最も多く、鳥取県の2倍になっている。続いて中国が18.7%、日本が18.5%となっている。

問14- c 韓国(日本)ではどちらに行かれましたか。(複数回答)

鳥取県民の韓国での訪問先は、ソウルが49.7%で最も多く、次いで慶尚道・釜山市が24.3%で、江原道へは10.2%であった。

江原道民の日本での訪問先は、東京が23.6%で最も多く、次いで大阪が22.9%、福岡が16.6%となっている。鳥取県へは7.0%であった。

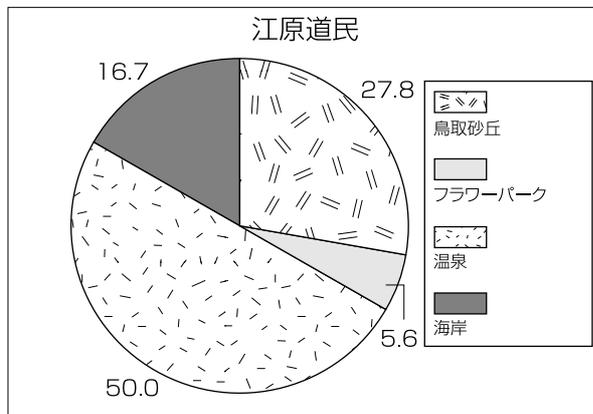
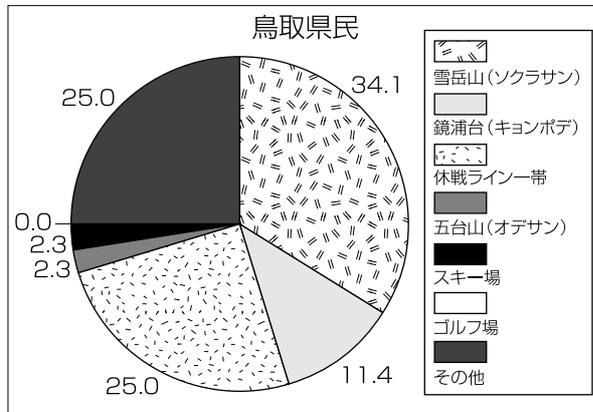


問14- d 江原道(鳥取県)ではどちらに行かれましたか。(複数回答)

鳥取県民の江原道での訪問先は、雪岳山が

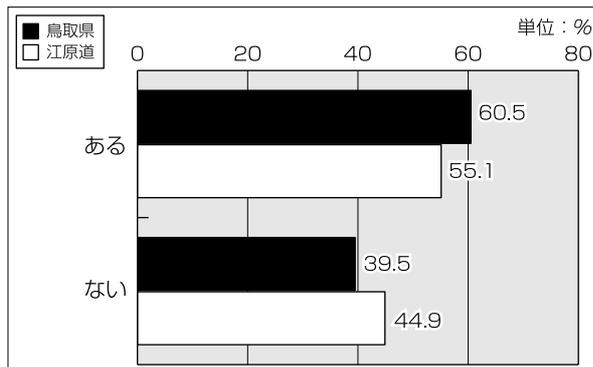
34.1%で最も多く、次いで休戦ライン一帯が25.0%となっている。

江原道民の鳥取県での訪問先は、温泉が50.0%で最も多く、次いで鳥取砂丘が27.8%となっている。



問15 韓国江原道という地名を聞いたことがありますか。

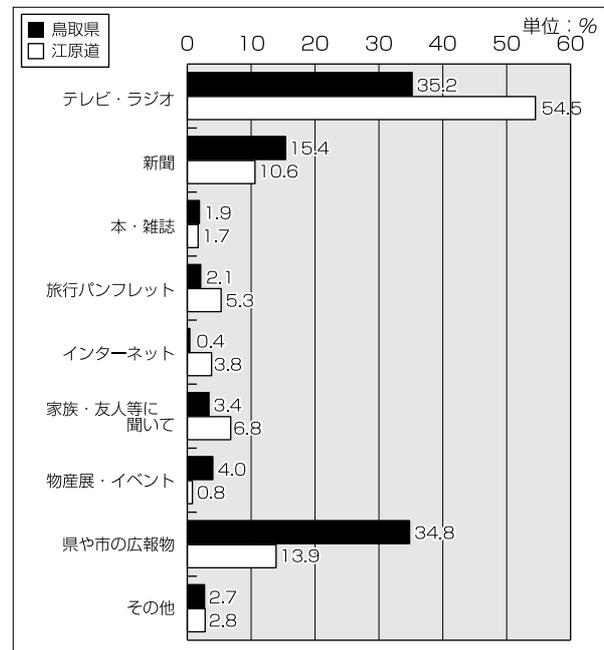
江原道を聞いたことがあると回答した鳥取県民は60.5%で、鳥取県を聞いたことがあると回答した江原道民は55.1%と、どちらも半数以上の方が鳥取県と江原道という名前を知っている。



問15-a 江原道の情報は、主にどのようにしてお知りになりましたか。

鳥取県民が江原道を知った情報源は、テレビ・ラジオが35.2%、県や市町村が発行する広報物が34.8%となっていて、この2つで7割を占めている。

江原道民が鳥取県を知った情報源は、テレビ・ラジオが54.5%と最も多く、鳥取県より19.3ポイント高くなっている。一方、広報物は13.9%で、鳥取県より20.9ポイント低く、テレビ・ラジオで鳥取県を知る割合が高くなっている。

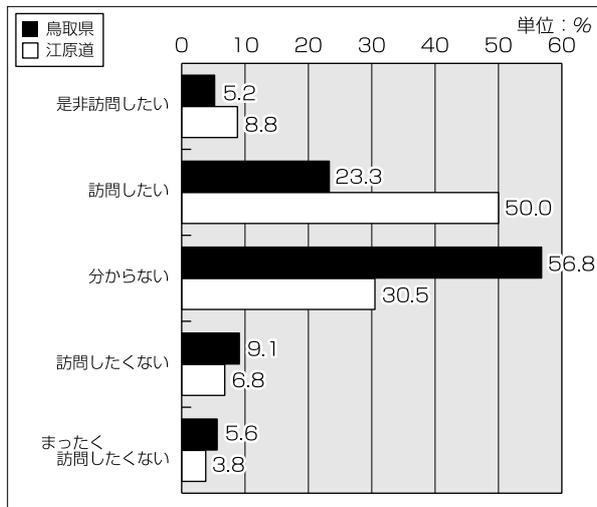


問16 あなたは、将来、江原道（鳥取県）を訪問したいと思われませんか。

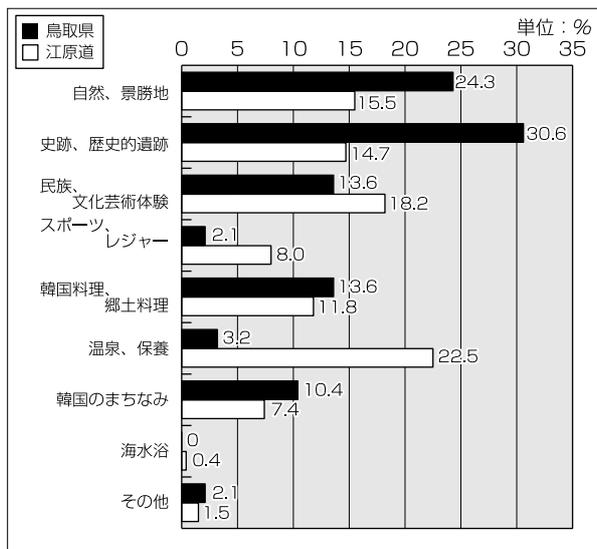
江原道を訪問したいと回答した鳥取県民は、「是非訪問したい」と「訪問したい」を合わせて、28.5%であった。「訪問したくない」と「まったく訪問したくない」を合わせ、訪問したくないと回答した鳥取県民は14.7%であった。最も回答が多かったのは、「分からない」56.8%であった。

鳥取県を訪問したいと回答した江原道民は、58.8%で、鳥取県側より30.3ポイント高

かった。一方、訪問したくないと回答した江原道民は10.6%で鳥取県側より4.1ポイント低くなっている。



問17 もし韓国江原道（鳥取県）を訪問するとしたら、どのようなところを最も訪問したいですか。



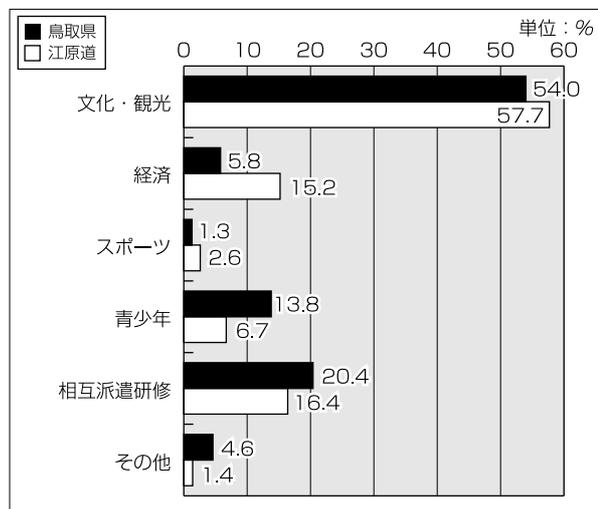
鳥取県民が江原道で最も訪問したいところは、「史跡、歴史的遺跡」が30.6%で最も高く、次いで「自然、景勝地」が24.3%となっている。江原道民が鳥取県で最も訪問したいところは、温泉、保養が22.5%で最も高く、鳥取県側より19.3ポイント高くなっている。次に、「民俗、文化芸術体験」が18.2%で、鳥取県側より4.6ポイント高くなっている。一方、鳥取県側で最も高かった「史跡、歴史

的遺跡」は14.7%で、鳥取県側より15.9ポイント低くなっている。

問18 今後、江原道（鳥取県）との交流において、重点をおいて推進すべき分野はどんな分野だと思われますか。

鳥取県では、「文化・観光」が54.0%で最も多く、次いで「人的交流」が20.4%となっている。

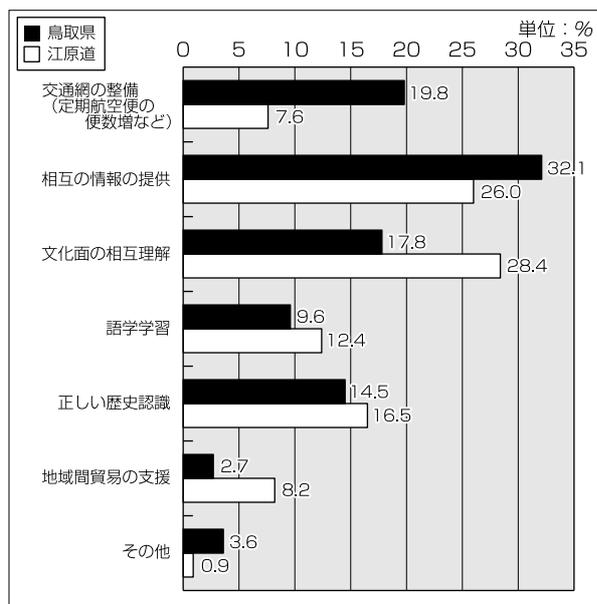
江原道では、「文化・観光」が57.7%で最も多く、鳥取県より3.7ポイント高くなっている。「経済」と回答した人は15.2%で、鳥取県より9.4ポイント高くなっている。



問19 今後、鳥取県と江原道との交流を発展させるためには、何が最も重要だと思われますか。

鳥取県では、「相互の情報の提供」が32.1%で最も多く、次いで「交通網の整備」が19.8%であった。

江原道では、「文化面の相互理解」が28.4%で最も多く、鳥取県より10.6ポイント高くなっている。次いで、「相互の情報の提供」が26.0%で、鳥取県より6.1ポイント低くなっている。鳥取県では高かった「交通網の整備」は江原道では7.6%で、12.2ポイント低くなっている。



## 4 まとめ

本調査では、個人での国際交流、地域での国際交流、海外訪問・江原道との交流の3区分ごとに、それぞれ現状と将来に分け調査票を設計し実施した。

### 交流希望先は環日本海諸国が最多

個人での交流を見ると、現在実際に外国人との交流がある方は4人に1人であるが、今後積極的に交流したいと考えている方は2人に1人あり、交流を求める意識が高いことが伺える。交流希望先としては、3人に1人が環日本海諸国と回答し、韓国江原道でも、環日本海諸国との交流を希望する人は多く、この地域の交流促進が一層重要性を増していくと考えられる。

### 国際交流は地域に好影響

地域での交流を見ると、半分以上の方がここ5年間に地域で外国人を見かける機会や国際交流活動等が多くなったと感じており、約8割の方が国際交流の進展はよい変化があると肯定的に捉えている一方で、実際に活動等に参加された方は2割にとどまっている。

### 国際交流活動への参加希望は4割

今後活動等へ参加を希望される方は4割あり、いかに参加しやすくしていくか検討され

る必要があろう。参加してみたい活動としては、「外国の文化や生活を学ぶ」が6割を占め、行政から発信して欲しい情報は「交流活動イベント情報」が約4割となっている。

### 海外訪問経験は県民の57%

海外訪問の現状を見ると、半数を超える方が海外訪問の経験があり、訪問先では韓国が一番多く、そのうち1割が江原道となっている。

江原道民の海外訪問経験者は約3割で、訪問先では東南アジアが最も多く、日本は第3位である。そのうち、鳥取県を訪問したのは7%であった。この割合は、韓国人に人気の高い大分と等しく、訪問の割合が高くなっているといえるであろう。

### 江原道の知名度は県民の61%

江原道という地名を聞いたことがある鳥取県民は6割に達したが、今後江原道を訪問したいと回答されたのは3割弱にとどまり、分からないという回答が半数を超えている。交流発展のために必要なこととして最も多かったのは「相互の情報の提供」であることから、地名は知っているがどんなところかよく分からず、様々な情報を求めている人が多いといえるのではないだろうか。

### 鳥取県の知名度は江原道民の55%

他方、江原道でも鳥取県の知名度は6割程度であり、鳥取県を訪問したいと回答された江原道民も6割程度であった。鳥取県への訪問先としては、「温泉、保養」が一番多くなっている。

今後、クロス集計などの統計手法によって調査を分析し、その結果を報告書にまとめる予定である。

最後ではあるが、お忙しいにもかかわらず、調査にご協力いただき、貴重なご意見をお寄せいただいた県民の皆さまに感謝とお礼を申し上げます。